飛鶴の森林から

発行日
2014年７月４日　第88号
林野庁 北海道森林管理局
釧路湿原森林ふれあい推進センター

くしろエコ・フェア２０１４

６月７日（土）、釧路市こども遊学館で「くしろエコ・フェア２０１４」が開催されました。

このくしろエコ・フェアは毎年、環境月間の６月に開催されており、シマフクロウがやってくるイベントとしても有名です。

今年は30団体が参加、当センターは、木の良さを体験してもらえるように「木の実・輪切りで工作」（国有林で採取した木の枝や松ぼっくり等を材料に工作を楽しんでもらう。）と「つみっき～で遊ぼう」（木製つみ木で自由に遊んでもらう。）のコーナーを用意しました。

開始から終了時間ぎりぎりまで、両コーナーは大勢の人でにぎわっており、訪れた家族連れのみなさんに、木の持つ独特のぬくもり、肌触り、色、音、匂いを感じてもらい、木の良さをＰＲすることができました。

人気の「木の実・輪切りで工作」満席です。

雷別国有林で植樹

６月は、植樹のイベント等を計画していたのですが、釧路地方は降雨日が多かったため、イベントが中止となったり、作業を変更する等、予定が大きく変わってしまいました。長雨のなか実施できた植樹活動２件について報告いたします。

６月11日（水）、標茶町雷別地区国有林の森づくり活動（自然再生活動）を行うボランティア組織、「雷別ドングリ倶楽部」が今年度第１回の活動を行いました。

当初、粗朶束設置を予定していましたが、降雨続きで粗朶束の作業は困難なため、植樹に変更して活動を行いました。

6月11日　ドングリ倶楽部の活動。

鳴いていたセミです。

６月22日（日）、標茶町雷別地区国有林で、山の日制定記念植樹の集い「自然再生は一本の植樹から」を行いました。

こちらは、チラシ、ホームページ、新聞等で公募を行い、参加者を募ったイベントです。

両日とも雷別地区国有林で行った作業は植樹、雨続きの釧路市内とは違って、作業地ではセミが鳴いています。

当センターの自然再生指導官から、植樹の作業や注意事項等の説明を受け、植付け用鍬と苗木を持って作業開始です。

エゾシカの食害で枯れてしまった木を抜き取り、鍬で植穴を掘り、ニレ・ヤチダモの苗木を植えていきます。更に今回植えた苗木をエゾシカから守るため、ヘキサチューブを設置して完了となります。

参加のみなさんは、手際よく各作業を行い、自然再生の大きな力となってくれました。

6月22日　植樹のようす。

アヤメが咲いています。

また、昼食時や作業終了後には、作業地周辺を散策しながら、アヤメ、スズラン、野生化したアスパラガス（キジカクシかも？）を見つけた人、色が緑や紫でアクのあるシダ植物や多年草なのに大木と表現されるウコギ科の植物を採取した人など、みなさん雷別での森づくり活動を楽しんでいました。

久著呂中央小中学校で森林教室

６月26日（木）、標茶町立久著呂中央小中学校で森林教室を行いました。

今回は、小学生３名（５年生２名、１年生１名）と木の観察と植樹を行いました。

校庭には、イチイ、アカエゾマツ等の針葉樹とヤチダモやシラカバ等の広葉樹があ

り、当センターの職員が先生になって、木の名前、葉の形、種の特徴、用途等を一本一本学習しました。

植樹は、木を植えた経験が無いということで、行ったもので、校庭の片すみにハルニレを植えました。用意した苗木は、当センターが標茶町内の国有林で種を採取し、苗木に育てたものです。

短い時間でしたが、児童の皆さんとも仲良くなり、「木を植えたのが楽しかったです。」の言葉をもらい森林教室を終了しました。

カツラの前で。

ハルニレを植えました。

雑記帳

この紋所は

以前、テレビで放送されていた、時代劇「水戸黄門」のクライマックスといえば、「静まれ、静まれ、この紋所が目に入らぬか・・・」と印籠を出すシーン。悪党一味は平伏せて「恐れ入りました」となります。さすが天下の副将軍、誰もが三つ葉葵の紋を知っています。

さて、「このマーク をご存じですか？」

林野庁・森林管理局（署）のパンフレット、ポスター、封筒、職員の名刺や制服の左胸、そして今お読みなっている当センターの「飛鶴の森林」でも見ることができます。

よく聞かれるのが、「このマークは何ですか？」答えは、国有林のシンボルマークです。

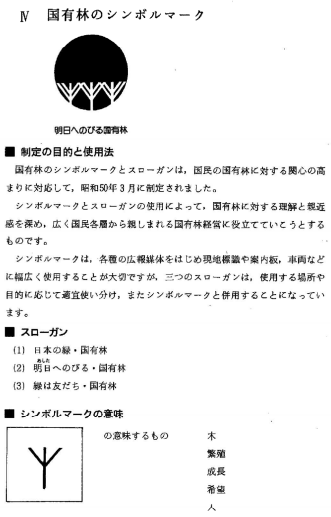
このシンボルマークは、いつごろから使われ、どんな意味等があるのでしょうか。林野庁職員で知らないのは、ひょっとすると私1人だけではと不安になり、世間に恥を晒す前に、こっそり調べることに。

よその省庁だと、ホームページにシンボルマークやロゴマークの意味、制定した年、誰がデザインした等の情報が載っているのですが・・・。

どこかでシンボルマークの意味等を書いたものを読んだ記憶があります。年を取ってくると、昨日のことは思い出せませんが、昔のことは覚えているものです。

今は昔、将来国有林の槙幹となる職員を養成する研修を受講したとき、その研修で使った教材にたしか載っていたはず、（現在使用されている教材を確認しましたが載っていないようです。）と言ってはみたものの、数十年前のことなので、どこにあるものやら。

探索の結果、養成研修普通科教材「広報」昭和63年2月20日発行 監修林野庁発行スリーエム研究会を発見しましたので、該当する75、76ページを皆さんにご披露いたしましょう。



Ⅳ　国有林のシンボルマーク

明日へのびる国有林

■ 制定の目的と使用法

国有林のシンボルマークとスローガンは，国民の国有林に対する関心の高まりに対応して，昭和50年3月に制定されました。

シンボルマークとスローガンの使用によって，国有林に対する理解と親近感を深め，広く国民各層から親しまれる国有林経営に役立てていこうとするものです。

シンボルマークは，各種の広報媒体をはじめ現地標識や案内板，車両などに幅広く使用することが大切ですが，三つのスローガンは，使用する場所や目的に応じて適宜使い分け，またシンボルマークと併用することになっています。

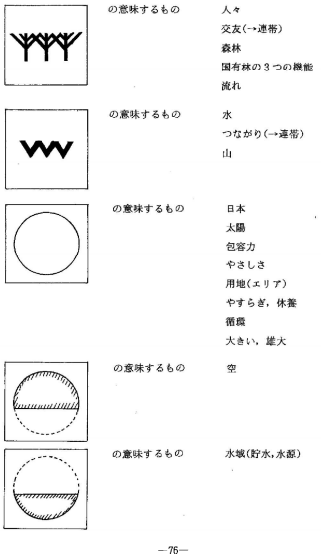
■ スローガン

(1) 日本の緑・国有林
(2) 明日へのびる・国有林
(3) 緑は友だち・国有林

■ シンボルマークの意味

の意味するもの　木　繁殖　成長　希望　人

—75—



の意味するもの　人々　交友(→連帯)　森林　国有林の３つの機能　流れ

の意味するもの　水　つながり(→連帯)　山

の意味するもの　日本　太陽　包容力　やさしさ　用地(エリア)　やすらぎ，休養　循環　大きい，雄大

の意味するもの　空

の意味するもの　水域(貯水，水源)

—76—

制定は「昭和50年3月」、目的は「国有林に対する理解と親近感を深め、広く国民各層から親しまれる国有林経営に役立てていこうとするものです。」とあり、外にシンボルマークの意味等が書かれています。

（と、ここで書いてしまっては、こっそり調べた意味があるまいに。）

7月の予定

＊7月16日（水）
第2回ドングリ倶楽部

＊管内の自然情報の収集や情報提供を行っています。下記のホームページを随時更新しておりますので是非ご覧下さい。

国民の森林・国有林

釧路湿原森林ふれあい推進センター

〒085-0825　北海道釧路市千歳町６番11

【IP】050-3160-5787【TEL】0154-44-0533【FAX】0154-41-7305

【E-mail】h_kusiro_f@rinya.maff.go.jp

【URL】http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/index.html

当ふれあい推進センターは、国有林をフィールドとして、北海道の多様な自然との共生に向けた自然再生活動に取組むＮＰＯ等の活動支援、森林環境教育等に携わる教育関係者の支援・技術指導等を行っています。